
嘘予告 鈴の魔法少女と練鉄の英雄

朱赤

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

嘘予告 鈴の魔法少女と練鉄の英雄

【Nコード】

N3629Y

【作者名】

朱赤

【あらすじ】

嘘予告です。

原作知らないといけないと思います。

（前書き）

あのいろいろと濃い世界にエミヤさんをつっ込んでみました。

私は単行本しか読んでいないのでブレイドで今どうなっているかは知りません。

もし設定と違うところがあっても二次創作ということでお許しください。

イレギュラーだった男性から本来の持ち主たる少女へと奇跡の杖が返った。

その杖の機能は幻獣や伝説の武器を呼び出すことに特化したもの。

「神威召喚——」

しかし彼女が呼び出したのはいずれのものでもなかった。

「——エミヤ」

「ずいぶん可愛らしいマスターに召喚されたものだ」

呼び出されたのは練鉄の英雄だった。

「ふむ、食事制限か。これまでそうだったものは考えたことがなかったからな。努力してみよう」

「食事当番の座は渡しません」

ときに食事を作り

「まさか巨大ロボットをこの目で見る日が来るとは……」
「エミヤさんもわかっていただけますか。男の子の夢を」
ときに感動し

「アンタ強そうだな。ちょっと相手してくれよ」

「戦闘狂の類かね。厄介な」

ときにケンカを売られながら日常を謳歌する。

「敵」が現れるその時まで……

一人の少女の話をしよう

少女は幻想に憧れた。

さまざまな神話を読み、幻獣や伝説に名を残す武器を知った。

ある日少女は不思議な力を手にした。

不思議な杖により、変身し幻獣や武器を呼び出す力を得た。

敵だった魔族とも相互不可侵を結び世界は平和になった。

平和になってしまった。

幻想の時間は終わりを告げた。

だが少女は幻想を手放したくなかった。

そして少女は気がついた。

悪が——「敵」がいれば自分は再び幻想の住人になれると……

そして少女は呼び出してはいけないものを呼び出してしまった。

少女は過ちで生み出してしまったそれを自らの命とともに業火の中へと葬った

——はずだった。

僅かな生への執着が隙を産んだ。

少女は体に乗っ取られ「敵」は生き残ってしまった。

少女は願った。

とめて——と

自分が生みだしてしまったこれを、自分の力も取り込んでしまったこれをとめて——と

個にして軍の自分をとめられる存在を願った。

そして奇跡は起こる。

「無貌の神よ。貴様を殺す」

「んふふー。やってみるがいい。リン・ロッドにあらざるイレギユラー」

少女の願いから呼び出された「英雄」と生み出された「敵」が相対する。

「この世界にあるのはすべて贗作だ。だが貴様が持つ空想たちに劣るものではないぞ」

今、無限の剣と獣が激突する。

おまけ

その日、デーモンジャーから高田邸へと緊急の連絡が入った。
いわく「シスターエンジェルの面々がおかしい」

同時刻ミルココも異常な魔力を感知したことから彼女たちの本拠地である教会へと足を踏み入れた。

そこにあつたのはボロ雑巾のようにされたデーモンジャーとシスターエンジェルに圧倒される“狂犬”桜の姿。

シスターエンジェルの姿もおかしい。

普段の修道服を基本にしながらもふりふりでひらひらの魔法少女のような服へと変貌している。

だがその変貌よりもシロウが気になったのは、シスターアクアマリンの手にあるリイン・ロッドのような、まるでおもちゃの杖。

「あはー！ 士郎さんお久しぶりですね」

「やはり貴様かルビー！ なぜここにいる！」

「いやー、こちらのアクアマリンさんの素直になれない乙女パワーに導かれて……」

「エリちゃん、プリティベルになって全力であの杖を破壊してくれ。きつとあれこそが世界規模の危機だから魔力を使いきっても大丈夫なはずだ」

「えっ、えっ？」

「いけずですねえ士郎さん。ですが正義の味方を目指すあなたでも

私に逆らうならば悪！ 皆さん！ 悪党どもに名乗ってやりなさい」

「ええ、わかったわルビー。我ら天界遊撃部隊」

「……修道服美少女戦士 シスターエンジェル」……

ビシッとそれぞれがポーズを決める。

ダッチとエリちゃんは大喜びだがそれ以外の面々は温かい目で見守っている感じだ。

「服装から予想はできていたがすでに洗脳済みだったか」

きつと元に戻った時には黒歴史として悶絶するハメにだろう。

これ以上黒歴史を増やさないためにもさっさと処理したほうがよさそうだ。

「カレイドステッキ。貴様を破壊する」

「あはー。やってみるといいですよ。この並行世界にあらざるイレギュラーさん」

その後モカが洗脳せつとくされたりいろいろあるのだがそれはまた別の話

……

ちなみに解決後、シスターエンジェルの面々はガーネットを除き数日間自分たちの部屋から外に出なかったという……

（後書き）

原作者のあとがきをみてつい書いてしまった。

ここまでインパクトのある魔法少女ものは大魔法峠とまどかマギカぐらいだと思う。

ぶっちゃけると書きたかったのはおまけの方。

リン・ロッドとカレイドステッキって似てないですかね？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3629y/>

嘘予告 鈴の魔法少女と練鉄の英雄

2011年11月9日02時09分発行